

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		看護物理学				
教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	履修年次	1年次	履修時期	4月～9月	
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間	
担当教員	工業高等専門学校教授	実務経験				
科目目的	物理的現象に関する基礎的知識や法則を学び、人間工学的立場から看護場面に応用できる能力を養う。					
学習目標	姿勢や動作を力と力のモーメントで考察し、看護に適した姿勢・動作を理解できるようにする。また、点滴、吸引、血圧とその測定などの流体に関する医療行為や機器を、流体の圧力に基づいて理解できるようにする。					
授業計画	回	授業内容			授業方法	
	1	1. 重いものを持つときの工夫			講義	
	2・3	2. 看護ボディメカニクスと物理学 1) 安定性 2) 力の節約			講義	
	4・5	3. 日常生活と圧力			講義	
	6	4. 人体の構造と物理学 1) 重心			講義	
	7・8	2) てこ			講義	
	9	3) 腰痛			講義	
	10	4) 力と姿勢			講義	
	11	5. 医療機器・処置と物理学 1) 圧力と医療機器1			講義	
	12	2) 圧力と医療機器2			講義	
	13	3) 圧力と医療機器3			講義	
	14	4) 圧力と医療機器4			講義	
	15	試験				
	使用教材	看護学生のための物理学 第5版 医学書院				
	成績評価の方法	筆記試験				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		文章表現法			
教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	履修年次	1年次	履修時期	4月～7月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	大学准教授	実務経験			
科目目的	論理的な思考の形式・構造を理解し、論理的思考と文章表現能力、文章読解能力を養う。				
学習目標	小論文の作成を通じて、取材・構成・記述・推敲・評価・語彙などの総合的な記述力を養う。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
		<p>以下の1～3の内容について、授業計画1～8回の講義で学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を書く上での心構えと基礎知識 2. 看護に関する問題意識の持ち方 3. 小論文・レポート作成の実際 			
	1	オリエンテーション・【小レポート】「労災紹介」 小論文の基本①(書き言葉と話し言葉・読者意識)			講義／演習
	2	小論文の基本②(意見と事実・正確で読みやすい文)			講義／演習
	3	小論文の基本②・続き・【小レポート】『夜野さん』			講義／演習
	4	小論文の基本③(全体構成・パラグラフ・メモ・アウトライン)			講義
	5	小論文の基本③・続き／【小レポート】『お別れナース』			講義／演習
	6	レポートの執筆①(材料集め・アウトライン作り)			演習
	7	レポートの執筆②(執筆・仮提出)			演習
	8	レポートの執筆③(清書・本提出)			演習
	※講義の進捗状況や学生の実態に応じて、講義内容は適宜変更する可能性があります。				
使用教材	講師がプリントを用意します				
参考文献	木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫、1994年)、戸田山和久『最新版 論文の教室』(NHK出版、2022年)ほか				
成績評価の方法	毎回課される提出物の内容(50点)、最終レポート(50点)				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		情報科学			
教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	履修年次	1年次	履修時期	9月～2月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	大学教授	実務経験			
科目目的	統計学の基礎知識・情報処理の基礎的技術を身につけ、医療・看護に活用できる能力を養う。				
学習目標	統計学の基礎知識・情報処理の基礎的技術を身につけ、医療・看護に活用できるようになる。				
授業計画	回	授業内容	授業方法		
	1	1. 現代社会とICT 2. 情報手段の適切な活用	情報科学室のPC を使用しての講義		
	2	3. 情報モラルの必要性と情報に対する責任	同上		
	3	4. 演習 1) データの種類とグラフ作成	同上・演習		
	4	2) データの加工(変化率)	同上・演習		
	5	3) データの加工(集計1・2)	同上・演習		
	6	4) データの加工(条件付き計算)	同上・演習		
	7	5) データの統計処理(1変量)	同上・演習		
	8	5) データの統計処理(2変量)	同上・演習		
	9	6) データの統計処理(応用)	同上・演習		
	10	7) プレゼンテーション資料とは	同上・演習		
	11	8) スライドデザイン、図形の挿入	同上・演習		
	12	9) スマートアートの挿入と編集	同上・演習		
	13	10) 表の挿入と編集	同上・演習		
	14	11) Excelで作成した表を取り込む	同上・演習		
	15	試験			
使用教材	資料は講義時に配布します。				
成績評価の方法	試験(実技試験:PCでの作業)				

科目名		コミュニケーション論			
教育内容	基礎分野 科学的思考の基盤	履修年次	2年次	履修時期	後期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	30時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	患者と良好な関係を形成し、スタッフ間およびチーム・多職種との連携を円滑なものとするために、医療現場で求められる態度やコミュニケーション技法を学び実践できる能力を身につける。				
学習目標	1. 対人関係能力を身につけるための3つの側面「マインド」「テクニック」「スキル」が理解できる。 2. 患者中心のチーム医療を実現し多職種連携を図るための、集団・組織に重要なコミュニケーションとは何かを理解できる。 3. 個人ワークや協同学習から自己の傾向を知り、他者を受け入れる態度を身につける。また、コミュニケーションをとおして、人と関わる楽しみが実感できる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	※講義のガイダンス			
	2	1. コミュニケーションの基本について復習 1) コミュニケーションとは 2) 言語と準言語と非言語 3) ソーシャルメディアの			講義・単独ワーク 協働ワーク
	3	2. テクニックとスキル			
	4	1) コミュニケーションの学習を進めるうえで重要な3側面			講義・単独ワーク
	5	マインド・テクニック・スキル 2) 共感的理解と傾聴技法 うなずきと相づち、繰り返し、共感、明確化、要約、開かれた質問			協働ワーク
	6	3) コーチングによる自己決定の支援			講義・単独ワーク
	7	コーチングとは、ティーチングとコーチングの使い分け			協働ワーク
	8	4) 患者理解と言葉かけ			講義・単独ワーク
	9				協働ワーク
	10	3. 人間関係形成に影響を及ぼすもの			講義・単独ワーク
	11	1) 対人感情と対人認知の誤り 2) 自己開示とフィードバック 3) 患者-医療者関係			協働ワーク
	12	4. 人間関係とチームワーク			講義・単独ワーク
	13	1) コミュニケーションと人間関係と集団・組織			協働ワーク
	14	2) チーム医療と多職種連携 3) 理念と目標管理とチームワーク(リーダーシップ、メンバーシップ、マネジメント) 4) チームワークを身につける協働ワーク			
	15	試験			
使用教材	諏訪 茂樹(編著);看護のためのコミュニケーションと人間関係 中央法規				
参考文献	①篠崎 恵美子ほか;看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 ②学生・新人看護師の目の色が変わる アイスブレイク30 医学書院 他				
成績評価の方法	筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価する				
科目の発展性、勤労者医療との関連					